

2005年4月7日

各 位

東レ株式会社  
武田薬品工業株式会社

#### 頻尿・尿失禁治療薬の共同開発および販売権に関する契約締結について

東レ株式会社(本社:東京都中央区、社長:榊原 定征、以下「東レ」)と武田薬品工業株式会社(本社:大阪府中央区、社長:長谷川 閑史、以下「武田薬品」)は、このたび、頻尿・尿失禁治療薬候補である「TRK-130(東レ開発番号)・TAK-363(武田薬品開発番号)」の共同開発及びマーケティング契約について合意しました。

本薬は、東レの医薬研究所が保有する化合物群の中から、頻尿・尿失禁治療薬として開発可能な化合物を見出すことを目的に2000年6月からスタートした両社による共同研究から見つけ出されたものです。

今回の契約により、本薬の開発・マーケティングについて、海外については武田薬品が、国内については東レが行うこととなります。本薬は現在、米国でフェーズ 実施に向け準備段階にありますが、今後、日米欧で本薬の開発を進め、1日でも早く販売に結びつけられるよう、効率的な開発に努めてまいります。

頻尿や尿失禁などの「蓄尿障害」は、膀胱が自分の意志に反して収縮する過活動膀胱に伴い発症します。過活動膀胱は加齢とともに罹患率が高まるとともに、長時間の移動を伴う旅行ができない、十分な睡眠がとれないなど日常生活の質(QOL:Quality of Life)を著しく低下させる疾患です。

現在、その治療には主に抗コリン系薬剤が用いられていますが、口渇、残尿感、便秘などの副作用が発現することが知られています。これまでの試験より、本薬は膀胱知覚抑制(排尿反射抑制)という新しい作用機序を有することが確認されています。また、膀胱機能に高い選択性を示すため、抗コリン薬に見られる副作用の発現頻度が低いことが期待されています。本薬が、新規の頻尿・尿失禁治療薬として、患者さんのQOL向上に大きく貢献するものと期待しています。

以上

<ご参考>

1. 過活動膀胱とは

過活動膀胱(OAB:Overactive Bladder)は、脳血管障害や認知症、多発性硬化症などの神経疾患や、加齢や前立腺肥大症などが原因で生じる、膀胱平滑筋の過度の収縮によって引き起こされます。欧米では人口のおよそ17%(Prog. Med., 23, 2013(2003))、日本でも40歳以上の12%が過活動膀胱に罹患していると考えられています(日本排尿機能学会誌、14, 90 (2003))。

2. TRK-130・TAK-363の特徴

本薬は、従来の抗コリン系の頻尿・尿失禁治療薬とは異なる新規のメカニズムを有する化合物です。抗コリン系薬剤は膀胱に直接作用して膀胱平滑筋の過度の収縮を抑えますが、同時に唾液腺などのほかの部位にも作用して口渇などの副作用を示します。

一方、本薬は膀胱への直接作用はなく、過活動膀胱における膀胱から中枢への異常信号を抑制することによって効果を示すと考えられるため、従来の抗コリン系薬剤では無効であった頻尿・尿失禁にも有効性を示し、また副作用も低減できるものと期待されます。

<本件に関するお問合せ先>

東レ株式会社

広報室広報課

東京 03-3245-5179

武田薬品工業株式会社

コーポレート・コミュニケーション部 大阪 06-6204-2412 東京 03-3278-2039